

名古屋大学総合保健体育科学センター 二十周年記念事業記録挨拶

平成8年8月26日（月）
於：名古屋大学シンポジオンホール

二十周年にあたって

名古屋大学総合保健体育科学センター長
佐藤 祐造（保健科学部）

一言御挨拶申し上げます。

本日、私共総合保健体育科学センター創立20周年記念事業を行うにあたりまして、加藤総長、野村副総長、各部局長の先生方、福島事務局長、本部および各部局の部課長、事務長の皆様、また、「三大協」を代表して大阪大学健康体育部長安東明夫教授、保健管理センターという関係からの愛知教育大学渡辺久雄教授、三重大学渡辺省三教授、そして日頃当センターを温かく御支援下さっている松井秀治名誉教授はじめ、OBを含めた学内外の方々をお迎えすることができますことは、私共にとりまして、本当に喜ばしいことであり、当センターを代表しまして、心から御礼申し上げます。

ご多用中のところ、本当に有り難うございました。

当センターの歴史につきましては、夕方、祝賀会にてスライドで紹介させていただきませんが、昭和50(1975)年4月、芦田学長のご在任時代に創設されました。また、昭和61(1986)年2月、飯島学長時代にプラズマ研究所講堂を会場として、10周年記念行事を開催させていただきました。

それ以降現在までの10年間当センターにとって、特記すべき事項としましては、まず第一に、平成3年4月に保健科学部教官および体育科学部教官の一部が大学院医学研究科健康増進科学を担当させていただくようになりましたことでもあります。

私共は設立当初から健康科学と運動科学を総合化した独立大学院の設置を目指しており、医学研究科担当という事は、中間的段階と位置づけています。しかし、大学院担当は私共にとって画期的なことであり、大学院生に対して心をこめて指導にあたり、これまでに課程博士4名、研究生の中から1名、学位（医学）を取得しています。また、現在大学院生が10名、研究生は25名在籍しています。さらに、現在、大学院生担当となっていない教官には、人間情報学研究科を担当させていただくよう交渉中でございます。

もう一つ大きな事項として、平成6年4月からは本学における四年一貫教育体制への移行に際して、保健体育の講義・実技が共通教育の基本主題課目「生涯健康とスポーツ」として内容が一新されたことであります。これは主として保健科学部教官が担当する「生涯健康と青年期」と体育科学部教官が担当する「現代社会と生涯スポーツ」という副主題に分かれますが、前者については一部、医学部教官の応援も得ています。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。後者ことに実技に関しては、テニス、バスケット、野球、ゴルフ等の各種スポーツだけでなく、体力増強のためのフィットネスコース、スキーなど野外スポーツも用意されており、学生の間で非常に好評です。また、障害者のためのアダプタテットスポーツも開講しています。さらに、それに関連する公開講座も学内外向けに開催しています。

次に研究面に関しては、昭和61年から平成7年度まで10年間で原著574編（139%）、総説746編（283%）、著書290冊（234%）、学会発表1363件（168%）と最初の10年間に比較して、いずれも150～250%になっており、おかげさまで研究活動も順調に発展していると思います。

学会開催について、平成3（1991）年には、私が組織委員長としてユネスコ後援の第8回国際運動生化学会を主催させていただき、国外から26ヶ国約200名、吹上ホールで開催しましたが、約200人の外国人が名古屋に来られ、日本人の研究者と交流された訳でございます。

平成5（1993）年には、矢部京之助教授が第9回障害者ヘルスフィットネス国際会議を横浜で開催されました。合計22ヶ国約600名の参加者と伺っております。

また、全国規模の国内学会としては、平成5年私が会長で第34回日本人間ドック学会が1,300名の参加者で開催されました。

平成6年には第4回日本車椅子スポーツ研究集会在矢部教授の会長、平成7年には第5回日本体力医学会シンポジウムが松井秀治名誉教授を会長とし、私が実行委員長として開催されています。

このような教育研究の他に、当センターとしては、学生および職員合計18,000名の健康管理という大切な役割を果たしています。

発足当初の学生数に比べて現在では170%となっており、健康診断、特別定期健康診断、心身両面にわたる健康相談等の業務も150～200%に増加しています。

しかし、教官増はなく、事務職員は定員削減でむしろ減少しており、保健管理室のスタッフは文字通り、悪戦苦闘致しております。また、エイズ講演会、救急処置講習会も開催しています。

一方、施設関係では新体育館の完成、テニスコートの全天候化、ナイター化、温水プールの完成等があり、体育施設の飛躍的充実がみられました。しかし、大学院生を受け入れるようになり、研究スペースの圧倒的不足を感じています。この点に関しましては、今般営繕で約100m²の増築が決定し、私共のような小部局にとって、まさに快挙であると思っています。総長先生をはじめ、事務局の方々の御尽力に深く感謝致しております。

以上、少々長くなりましたが、この10年間の教育・研究・業務等につき、まとめて紹介させていただきました。

前回の10周年記念行事の時、当時の戸田センター長は最初の10年を当センターが独立部局としての基盤整備を行ったところであると表現されましたが、最近の10年間は助走から本格的に走りはじめたところである。また、四年一貫教育という観点からは最初のハードルをこえたが、再評価という次のハードルがせまって来るところといえると思います。

適度なスポーツ、身体トレーニングは成人病予防や老化防止、ストレスの解消に効果的であります。しかしながら、各種の病態や中高年者に対する運動処方はずしも確立されていません。さらに、アクティブなライフスタイル構築のためにも生涯教育の一貫としての社会人に対する健康教育、スポーツ教育の必要性が高まっています。高齢化社会、余暇社会を迎えつつある現在、これらの健康やスポーツに関する総合的な学術研究の社会的ニーズは日毎に増加しています。

本センターでは、創設以来の構想と現状を踏まえ、将来的には独立した大学院設置を含む、健康とスポーツの総合的な教育研究体制を整えるための第一歩として、「健康スポーツ科学部」への名称変更を含む抜本的な機構改革を目指す概算要求を行っています。

名古屋大学という大学院大学の中の一部局として、今後私共は教育・研究レベルを建物、研究機器等というハード面だけでなく、ソフト面でも確立すべく精進する所存でございます。学内外からの関係者の皆様のご高配、ご尽力に対し、心から感謝の意を表したいと存じます。また、今後も尚一層の御指導、ご支援を御願い申し上げまして、私のあいさつとさせていただきます。

本日は誠に有り難うございました。